

別記様式第1号（第7条関係）

平成30年 4 月 16 日

長岡京市議会議長
福島 和人 様

会 派 名 輝
経理責任者名 宮小路 康文



平成29年度（11月～3月分）政務活動費収支報告について

長岡京市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定により、別紙のとおり平成29年度（11月～3月分）政務活動費収支報告書を提出します。

平成29年度（11月～3月分）政務活動費収支報告書

会派名 輝

1 収 入

政務活動費 312,500 円

2 支 出

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | 備 考 |
|--------|---------|--------|
| 研究研修費 | 0 | |
| 調査旅費 | 294,020 | 視察旅費 |
| 資料作成費 | 0 | |
| 資料購入費 | 45,846 | 図書購入費 |
| 広 聴 費 | 0 | |
| 事 務 費 | 9,650 | 複写機使用料 |
| その他の経費 | 0 | |
| 合 計 | 349,516 | |

3 残 額 0 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

平成29年度(11月～3月分) 政務活動費 領収書明細一覽

NO.1

期間:平成29年11月から平成30年3月

会派名 輝

研究研修費

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|----|----|----|-------|---------|-----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | 小計 | | 0 |

研究研修費 計 0 円

調査旅費

1. H30 1/15 テーマ: 草津市視察(民営児童クラブの取り組みについて)

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|-----|------|----------------------|-------|---------|-------|
| 交通費 | 1/15 | JR長岡京⇄草津駅。往復1160円×5名 | 5,800 | | 1 |
| | | | | | |
| | | | 小計 | | 5,800 |

2. H30 2/5～7 テーマ 八代市、別府市視察(定住促進の取り組みについて)

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|-----|-----|---|---------|------------|---------|
| 交通費 | 1/9 | JR長岡→新大阪→熊本→八代。 有佐→熊本→別府 別府→小倉→新大阪→長岡京。 | 229,000 | 西日本旅客鉄道 | 2 |
| 交通費 | 2/5 | 八代駅→八代ホテル 2名 | 610 | 西田交通 | 3 |
| 交通費 | 2/5 | 八代駅→八代ホテル 3名 | 610 | 神園交通 | 4 |
| 宿泊費 | 2/6 | 八代グランドホテル 4900円×5人 | 24,500 | 八代グランドホテル | 5 |
| 宿泊代 | 2/6 | ホテルSEAWAVE 6700円×5人 | 33,500 | ホテルSEAWAVE | 6 |
| | | | 小計 | | 288,220 |

調査旅費 計 294,020 円

資料作成費

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|----|----|----|-------|---------|-----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | 資料作成費 | | 0 円 |

資料購入費

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|-------|-------|-----------------|--------|-------------|----------|
| 図書購入費 | 10/26 | 新地方公会計の基礎知識 | 2,916 | 大垣書店 | 7 |
| 図書購入費 | 12/6 | ガバナンス(11月～3月) | 5,130 | 株式会社ぎょうせい | 8 |
| 図書購入費 | 6/6 | 日経グローバル(11月～3月) | 37,800 | 日経BPマーケティング | 9 |
| | | | | | |
| | | | 資料購入費 | | 45,846 円 |

広聴費

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|----|----|----|-------|---------|-----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | 広聴費 | | 0 円 |

事務費

| 分類 | 日付 | 内容 | 金額(円) | 支払先・領収書 | NO. |
|------|------|--------|-------|---------|---------|
| コピー代 | 4/11 | 11月～3月 | 9,650 | 市役所 | 10 |
| | | | | | |
| | | | 事務費 | | 9,650 円 |

平成29年度(11月～3月分)政務活動費 合計 349,516 円

会 派 名 輝

会派代表者名 綿谷 正巳

支 払 証 明 書

| | | | |
|----------------------------------|---|------|---------------|
| 支 出 項 目 | 調査旅費 | 支出番号 | 第 1 号 |
| 支 出 日 | 2018年1月15日 | 支出金額 | 金 5 , 8 0 0 円 |
| 支 出 先 | J R 西 日 本 | | |
| 支 出 内 容 | 乗車券 | | |
| 支出証拠書類 を添付するこ とができない 理由 | 長岡京⇔草津 往復 580円×5名 往復 乗車券購入のため | | |
| | 経理責任者 | 宮小路 | 康文 |

領収書 添付用紙

科目名: 調査旅費

会派名 光軍

領 収 書

Receipt 輝 様

領収年月日 2018.-1.-9
金額 ￥229,000 (消費税等込み)

上記金額確かに領収いたしました

購入商品 JR乗車券類 JR tickets

(00322 45枚)
西日本旅客鉄道株式会社

長岡京駅
長岡京駅@1発行 10323-01

印紙税申告納
付につき大淀
税務署承認済

2

領 収 書

2018年02月05日-011

メーター運賃 ￥610円

合計 ￥610円

現金支払 ￥610円

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 0116

毎度ご乗車ありがとうございます。

(有)西田交通

八代市葦牟田町456-2

代表TEL: 0965-32-1414

3

領 収 書

2018年02月05日-014

メーター運賃 ￥610円

合計 ￥610円

現金支払 ￥610円

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 0118

(有)神園交通

八代市通町10-57

代表 TEL:0965-32-2121

福祉タクシー・ジャンボタクシーも
ご利用下さい。

4

領収書

2018年2月6日

No. 048084

輝 様

¥ 24,500

但し、ご利用代金として
上記のとおり確かに領収いたしました。

HMI HOTEL GROUP
八代グランドホテル
〒866-0844
熊本県八代市旭

TEL: 0965-32-2111
FAX: 0952-34-8802

印
紙

5

2018/02/06

領 収 書 (RECEIPT)

000127698

| | | | | | |
|-------------------|-----------------|----------------------|------------------|-----------------------------|--|
| 客室番号 (room.no) | 606 | お名前 (name) | 輝 様 | | |
| ご利用額合計 (total) | 現金 (cash) | カード (CREDIT CARD) | クーポン (coupon) | 残掛 (ACCOUNTS receivable) | |
| 33,500 | 33,500 | 0 | 0 | 0 | |
| 入金 (receipt) | ポイント (POINT) | おつり (change) | | | |
| 0 | 0 | 0 | | | |

消費税を含む上記の金額正に受領致しました。

印 収
紙 入

ホテル SEA WAVE

〒874-0935 大分県別府市駅前町12番8号
tel (0977)27-1311 fax (0977)27-1310

2018年2月6日
06
PPU

押印なきものは無効

担当: [Redacted]

6

領収証

輝 (富田 達也)

様

No. 185782

2017年 10月 26日

| | | | | | | | | | |
|----|--|--|---|---|---|---|---|--|--|
| 金額 | | | | | | | | | |
| | | | 5 | 2 | 9 | 1 | 6 | | |

上記正に領収いたしました 但
内
消費税

書籍代として
新地方公認の基礎知識

収入
印紙

| | | | |
|--------|--|--|--|
| 現・小・クレ | | | |
| | | | |

株式会社 大垣

〒603-8148 京都市北区小山西花池町

振込金受領証
(金融機関・コンビニエンスストア用)

払込人氏名
輝 (かがやき) 様

お問い合わせ番号
500711750

金額
5,130

内消費税額
380

受取人
株式会社きょうせい

振込先
[Redacted]

受領印
[Redacted]

収入印紙貼付欄
(C.V.専用)
[Redacted]

(お客様控)

8

納品書

輝 (かがやき)

様 平成 29年 11月 24日

東京都江東区新木場1丁目18番11号 (〒136-8575)

金額には消費税及び地方消費税が含まれております。 下記のとおりの納品いたします。
(0450-0060802)

株式会社きょうせい

代表取締役
社長 成吉

| | | | |
|------|----------|------------------|-------------------------|
| ご納品額 | ¥5,130.- | お得意様No (納品No) | 50-0711750 711941702 |
|------|----------|------------------|-------------------------|

| 品名 | 追録号数 | 数量 | 単価 | 金額 | 備考 |
|-----------------------------|------|----|------|------|----|
| 月刊「ガバナンス」 29年11月号～30年3月号 | 購読料 | 1 | 5130 | 5130 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

領 収 証

No 094548

輝

殿

(5320008770)

¥ 37,800

印
紙

但し 日経グローバル 購読代金として
(2017年11月～2018年3月)

上記の金額正に領収いたしました

2017年 6月 6日

東京都港区虎ノ門

株式会社 日経BPマテリアル・サービス

扱 印



9

年間購料 90,720円の5ヶ月分 (11月～3月) $7,560円 \times 5ヶ月$ 後期
 $¥37,800$
(4月～10月) $7,560円 \times 7ヶ月$ 前期
 $¥52,920$ (民生7万-70)

納入通知書兼領収証書

| | |
|--|--------------|
| 主管課名 | 総務課 |
| 納入者 | 輝 様 |
| 年度 | 平成29 年度 |
| 会計 | 01 一般会計 |
| 金額 | ¥9,650 円 |
| 科目 | 12 複写機使用料負担金 |
| 納付目的 平成29年度複写機使用料 | |
| 納付期限 平成 30 年 4 月 27 日 限り | |
| 納付場所 長岡京市役所 または、下記金融機関 京都銀行 池田泉州銀行 京都信用金庫 関西アーバン銀行 京都中央信用金庫 三井住友信託銀行 りそな銀行 三菱UFJ銀行 みずほ銀行 三井住友銀行 近畿労働金庫 京滋信用組合 京都中央農協 | |
| 上記の金額を納付して下さい。 平成 30 年 3 月 30 日 長岡京市長 | |
| 上記の金額を領収しました。 | |
| 長岡京市会計管理者 長岡京市指定金融機関 長岡京市収納代理金融機関 (納付者保管) | |

10

領収印
 納済
 30.4.11
 京都・長岡

別記様式第3号（第8条関係）

平成30年 4 月 16 日

長岡京市議会議長
福島 和人 様

会 派 名 輝
代表者名 綿谷 正巳



平成29年度（11月～3月分）調査研究報告について

長岡京市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項の規定により、別紙のとおり平成29年度（11月～3月分）調査研究報告書を提出します。

平成29年度（11月～3月分）調査研究報告書

会派名 輝

| | |
|---------|-------------------------|
| 事業名 | 先進地調査研究事業 |
| 事業の実施時期 | 平成29年 11 月 ～ 平成30 年 3 月 |
| 事業の実施場所 | 別紙による |
| 事業の内容 | 別紙による |
| 所感 | 別紙による |

草津市行政視察報告

草津市の児童育成クラブについて

日時：2018年1月15日

視察先：滋賀県草津市

視察者：綿谷正巳（幹事） 大伴雅章、進藤裕之、富田達也、宮小路康文

◇草津市の概要

草津市は滋賀県の南東部に位置し南北 13.2 km・東西 10.9 km。総面積 67.82 km²、琵琶湖の一部も草津市が有するところから陸地面積は 48.65 km²となっている。東海道と中山道の分岐・合流の地点でもあったことから古くから人と物とが往来し永い歴史が刻まれたところである。

◇草津市の特性

少子・高齢化と人口減少が進む全国的な人口動向とはことなり、大都市圏へのアクセスがよく生活の利便性が高い職住近接のまちとして、ファミリー世帯や学生の流入が続いている。

近畿圏・中央圏をつなぐJR湖西線や国道1号線、名新高速道路など交通の要衝であることから滋賀県を代表する工業都市として発展し、今もなお、先進技術を活かした新しい産業の立地が続いている。

◇人口

草津市は昭和29年の市制施行時には32,152人だが、昭和40年代、50年代にかけて京都・大阪などの大都市周辺のベッドタウンとして著しく増加。さらに、大学の立地やJR駅前周辺の市街地整備などにより活発な宅地開発が進み、近年、一段の人口増加となって平成27年では137,327人となっている。

■育成クラブの全体像

草津市の児童育成クラブ

- 公設児童育成クラブ「のびっ子〇〇」：指定管理 14 箇所
 - * 指定管理者選定委員会で審査
- 民設児童育成クラブ：補助金 10 箇所（H30 から 12 箇所）
 - * 社会福祉法人等審査会で審査

■育成クラブの運営

・場所 公設 ①小学校敷地内の専用施設②校舎の空き教室③専用施設及び空き教室④市民センター
民設 賃借物件（小学校から概ね500m以内の一戸建て、専用施設、ハイツ等）*新設はしない

・開設日

基本保育時間 平日：放課後から午後5時30分
土曜日、学校休業期間：午前8時30分から午後7時まで

休所日 日曜、祝日、年末年始（12/29～1/3）

保護者負担費 9,000円/月（公設・民設ともに同じ）

支援員設定 40人以下で2名（実質3人で運営している）

■各種補助金

開設の補助金

| 補助対象事業 | 補助対象経費 | 補助率 | 補助基準額 |
|--------|-------------------------------------|------|------------|
| 施設整備事業 | 新たに児童育成クラブ保育事業を実施するために必要な施設の整備および修繕 | 2分の1 | 4,000,000円 |
| 備品購入事業 | 初度備品の購入に要する経費 | 2分の1 | 1,000,000円 |

補助金の額は民設児童育成クラブの運営に係る経費から徴収すべき保育料を差し引いた額と補助対象経費のいずれか少ない額とする。

| | 補助基準額 | 適用要件等 |
|-------|------------|--------------|
| 運営基本額 | 5,742,292円 | 児童20人未満 |
| | 5,907,647円 | 児童20人以上30人未満 |
| | 6,073,002円 | 児童30人以上40人未満 |
| | 6,238,356円 | 児童40人以上 |

*その他、夏季期間の運用加算、障がい児加算、賃借料加算、送迎加算がある。

■民設育成クラブの特徴

クラブによって送迎、保育時間の延長（20時まで）、塾が母体の場合は特色を生かし英語教育、ピアノ教育、体操などを教えるところもある。

■育成クラブの問題点

・労働の時間帯の問題や低賃金のため、支援員・補助員の確保が難しい。そのため、議会や事業者から処遇改善の要望がでている。

・民設児童育成クラブは、学校敷地内にある公設児童育成クラブに比べ移動の不便さから人気でない傾向にある。保護者の多様なニーズに対応できるメリットを活かさない、入会者は少ないという状態になる。

■今後の課題

民設育成クラブについて

- ・市街化調整区域など物件が少ない学区については開設しにくい。
- ・住宅街に開設することも多く、騒音を心配する近隣住民に反対される可能性がある。

■所感

草津市では民設への補助金も十分とは言えないが交付し民間の力を大いに受け入れ、そして協力し合っていることが分かる。児童入会希望者を募ると公設は小学校敷地内に併設されているため利便性が高く人気である。民設は英語教育や送迎、児童を20時まで受け入れるといった多様なニーズに対応し入会希望者が増えている。当然ながらサービス面で劣る民設育成クラブは入会希望者が一向に増えない状態である。学校側も民設育成クラブにグラウンド、プールを貸し出しするなど協力的。

草津市は入所希望者の増加や多様なニーズに対応するのは既存の公設育成クラブだけでは限界がある。この点に関して長岡京市も同様である。国が規定している適正受け入れ人数の課題や延長保育、英語教育など多様な学童保育のニーズが高まるなか、本市においても民間の力を活用する参考としたい。

行 政 視 察 報 告 書

- ①日 時 : 平成30年2月6日(火) 10:00 ~ 12:00
- ②視 察 先 : 熊本県八代市(人口128,845人/世帯数55,768世帯/H30年2月28日現在)
(面積973.81km²/議員定数32人)
- ③会 派 : 輝(かがやき)
- ④氏 名 : 大伴雅章 綿谷正巳 進藤裕之 宮小路康文 富田達也(記)

⑥視 察 目 的 : 本市にも訪れるであろう人口減少を乗り越えるために、既に人口減少が始まっている先進自治体の取り組みを視察し、本市での移住・定住促進事業を進める。

⑦視 察 内 容 :

・移住・定住促進事業の背景

八代市は昭和30年に16万4,725人を記録してから徐々に人口が減少しており、昭和55年には15万389人、平成25年には13万2,266人、そして現在では12万8,845人まで減少が進んでいる。主な要因として、社会減が続いており、近郊の熊本市や福岡市等への移住が課題として挙がる。平成19年に839人の社会減を最大とし、徐々に人口流出は止まりつつあるが、まだまだ社会増までは遠い。社会減の原因としては、大学卒業後に就職する先として大都市が選ばれている可能性が高い。また、自然減も近年は進んでおり、平成25年には727人の自然減を記録している。将来的にはU・I・Jターンを進め人口減少を食い止める、ということが目標となっている。

・八代市の移住・定住促進施策

①移住定住情報サイトの運営

- ・市の特別サイトとして「移住・定住情報サイト」運営
- ・空き家バンクの情報も平成28年度から随時アップされている
- ・情報サイトとは別に「八代あったかねっと」という婚活等を専門としたサイトも運営

②移住相談会の実施

- ・熊本県ふるさと回帰支援センターが開催する移住相談会、フェア等に参加
- ・平成29年度は東京3回、福岡1回に参加

③移住体験モニターツアーの実施(民間)

- ・八代二見定住促進協議会が主催、首都圏の移住希望者を対象にモニターツアーを実施(3名参加)
- ・協議会は国からの補助金(農山漁村振興交付金)を活用

④職業相談室の開設

- ・U・I・Jターン希望者等の就職を促すため、「八代市職業相談室」を開設
- ・情報にはハローワーク以外の市独自のものもアップされている
- ・平成28年度の利用者は2,797人

⑤インターンシップの実施

- ・一般社団法人八代圏域雇用促進センターを立ち上げ、企業と学生をつなぐインターンシップを実施
- ・事業期間は平成28年から平成32年まで
- ・八代圏域は若者の流出が非常に多いが、Uターンを望む学生も多数存在する。その若者に対して地元企業とつながる仕組みとしてインターンシップを実施
- ・インターンシップ以外にも地元就職のための相談窓口の設置、企業とのマッチングを支援

⑥空き家バンクの開設

- ・空き家と移住・定住希望者とのマッチングのため、空き家バンクを開設
- ・空き家バンク成約物件に関して補修費用等を一部負担(最大50万円)
- ・登録物件は7件(平成30年1月末現在)

⑦やっしろ暮らし相談会の実施

- ・暮らしに役立つ情報を紹介する「はじめてのやっしろ暮らし相談会」を開催
- ・平成29年は本町のマルシェに2回出店
- ・カフェのように気軽に立ち寄れるものとした

⑧情報誌発行・SNS

- ・移住定住交流情報誌「NETWORK」を発行
- ・平成29年6月から転入窓口で配布、希望者へは郵送を行っている
- ・発行は不定期で、実績として6回
- ・情報誌のみではなく、SNS発信としてFacebookも活用している

⑨移住交流カフェの実施（民間）

- ・八代二見定住促進協議会が「移住交流カフェ」を設置
- ・平成30年1月プレオープン（月・水・金）
- ・平成30年2月～3月からオープン（平日オープン、土日は不定期でワークショップ等開催）

・移住・定住促進への課題

移住・定住促進事業に取り組む市町村が増加しており、平成26年度では1,378自治体に取り組んでいる。そのような中で地方移住者は増加傾向にあるものの、1市町村あたり平均で8.5人程度しか人口流入が得られず、施策に見合った効果があるのかどうか検討しなければならない。また、地方移住希望者は増加傾向にあるものの、「半農半X」や「悠々自適」な生活から企業への就労を希望している希望者が増加しており、八代市の施策がこのような希望者にマッチングしているのか検討しなければならない。

所 感 :

移住・定住促進事業を行っている自治体が増加しており、若者世代の奪い合いになっているという事が現状である。本市においては人口が微増しており、その主な要因としては大都市からのアクセスが良く、また自然が豊かに存在しているという点であると考えられる。八代市とは状況が全く違うが、本市においても今後は人口減少が予測されており、移住・定住促進は中小路市長の公約でもあり、人口が微増している現在からしっかりとターゲットに合った施策に取り組んでいくべきである。八代市の施策のうち、地元企業のインターンシップ等の地域にある企業と学生を「つなぐ」取り組みは非常に面白い取り組みであると感じた。本市においても地域企業は多々存在しており、京都や大阪等に出ている学生が地元に戻ってきやすい取り組みが今後必要ではないだろうか。その意味でも地域企業と地元の学生をマッチングする取り組みは検討していくべきである。

移住・定住促進とは「住みやすさの改善」を意味するものであり、現在長岡京市に住んでいる方にとっても必要な施策であると言える。50年、100年先の長岡京市を見据えた取り組みとして、移住・定住促進事業は今後も検討し続けなければならない事業であり、八代市を参考として取り組んでいきたい。

会派行政視察報告書

行先 : 別府市役所 (大分県別府市)
 視察内容 : " 移住支援について "
 日時 : 平成 30 年 2 月 7 日 (水) 9:30 ~ 11:40
 面会者 : 議会事務局) 檜垣局長、建設部建築指導課) 渡邊課長、古本氏、
 企画部総合政策課) 柏木参事、末松主査、福祉保健部福祉政策課) 江藤課長補佐
 参加者 : 輝 (かがやき) : 進藤裕之、大伴雅章、富田達也、宮小路康文、綿谷正己【報告者】

目的 : 全国の各自治体において人口減少、少子高齢化が加速的に進んでいる。2025 年問題も含め、人口対策が今後の大きな課題である。流出人口を押さえ、流入人口を如何に増やすかがキーとなる。そのための人、資源、財源、更にはアイデアによる差別化や注目を浴びる話題づくりも必要である。その対応策は地域により異なる部分もある。今回、おんせん県としても有名な大分県別府市の移住支援施策を学び、本市への参考とするものである。

<別府市の概要>

人口 : 118,540 人(平成 30 年 1 月 31 日現在) 高齢化率 32%

世帯数 : 62,127 世帯

面積 : 125.34 km² (本市の 6.5 倍)

観光動態 : 観光客年間総数 7,944,021 人 (宿泊客数 2,348,584 人、日帰り : 5,595,437 人)
 外国人観光客 447,412 人 (前年比 2.2% 増) 数値は平成 28 年実績

日本一の別府温泉 : 環境省のデータによれば源泉数、湧出量ともに日本一である

外国人住民が多い、約 4 千名。立命館アジア太平洋大学 (APU) の学生がメイン。

* 別府市の人口ビジョンによる目標値は、

社人研推計準拠値である 2040 年 98,568 人を 10 万人超へ、2060 年 78,929 人を 9 万人超とし、各種施策を実施するとされている

<空き家バンク制度>

・ 空き家バンク制度は平成 27 年よりスタート

実績 : 登録総数 50 件 (稼働中 16 件、成約 15 件、抹消 19 件)

・ 拡大策

1. リーフレットを固定資産通知に同封して送付
2. 意向調査 700 件 (H25 年に実施した調査で A ランクとされたもの) を対象に push 型で実施。

・ 課題

1. 掲載物件の確保
2. 相続の問題でバンクまでつながらない
3. 空き家の適正管理
4. 家財や仏壇などの片付け
5. 適正価格の確保や信頼できる相談先の確保

<移住支援について>

・ 移住支援の取り組み内容

1. 移住定住促進パンフレット製作・配布 A5 サイズ / 16 ページ、5 千部 (H29 年 10 月増刷)
 ↳ 市内各地域の紹介や先輩移住者の経緯や経験、感想など、相談窓口等を記載

2. 別府移住計画のガイドブック製作 (H25 年度 ~ 毎年度改定)
 ↳ 行政サービスを中心に記載

3. 移住者居住支援事業開始 (H27 年度から)

空き家バンクの契約者 上限 100 万円、補助率 2 / 3 (県 1 / 3、市 1 / 3)

4. 移住イベントへの参加

H27 年度 1 回 (東京)、28 年度 5 回 (東京 3 回、福岡、大阪各 1 回)

H29 年度 3 回 (東京 2 回、福岡 1 回)

5. おためし移住事業開始「フロムーン別府ハウス」H30 年 2 月より

空き家をリノベーション (平屋 1 LDK / 65 m²)、1 泊 5,400 円 (税込、人数による料金変動なし)、利用期間は 5 泊以上 10 泊以内、必要な設備は備え付け、風呂は温泉

利用条件 : 市外在住で移住を検討している方等、観光目的は利用不可

6. 地元ケーブルテレビによる移住経験者のビデオ作成やその記事要旨の市HPへの記載、現在のところ17名分を作成、放映済み

【所感】

本市は現在のところ、幸いにして人口は微増中ではあるが一方高齢化率は着実に進んでいる。また、住宅の小規模開発は続いている中ではあるが、空き家も増加している。流出人口を減らし、流入人口を増やしたい。そのためにも若年者、高齢者にも対応できるような環境が必要と考える。コンパクトな市であり、交通利便性は優位であるが若干、土地建物が高価であることが難点。そのためにも就労政策や子ども支援、医療・福祉政策をもパッケージとして提示できればと考える。今回、別府市では温泉のみならず、海、山の自然環境は素晴らしく、圧倒的な観光資源に恵まれているが、人口減少への危機感は半端なく、新市長のもと移住政策を強力に推進されている。病院や医療機関が豊富であるとのことであり、別府市の優位性はあると感じた。就労の場所については悩みも多いとお聞きし、苦勞されている面である。移住される方もそうだが、やはり基本は地元をよく知る、その地で育った人が出来るだけ市外に出て行かれないような教育・就労の場所がないと難しいと感じる。別府市でも別府を学ぶ資料を作り、小学校で学ぶ機会を始められたとのことである。参考にしたい。

本市も同様に市の魅力の学ぶ機会のみならず、周辺地域を考慮すると大学など教育、就労の機会・場所があることは、他の自治体より優位な点であり、アピールできる強みとして訴求する点であり発信方法を検討すべきと考える。